

200925023B

厚生労働科学研究費補助金

がん臨床研究事業

NK細胞腫瘍に対する東アジア多国間治療研究

平成19年度～21年度 総合研究報告書

研究代表者 鈴木 律朗

平成22(2010)年3月

厚生労働科学研究費補助金

がん臨床研究事業

NK 細胞腫瘍に対する東アジア多国間治療研究

平成 19 年度～21 年度 総合研究報告書

研究代表者 鈴木 律朗

平成 22 (2010) 年 3 月

目 次

I. 総合研究報告書	
NK 細胞腫瘍に対する東アジア多国間治療研究……………	3
鈴木 律朗	
II. 研究成果の刊行に関する一覧表 ……………	19
III. 研究成果の刊行物・別刷 ……………	25

I. 総合研究報告

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）

総合研究報告書

「NK 細胞腫瘍に対する東アジア多国間治療研究」班

研究代表者 鈴木 律朗 名古屋大学医学部 造血細胞移植情報管理・生物統計学 准教授

研究要旨

世界でも東アジアに多いNK細胞腫瘍に対する有効な治療法を開発するため、多国間国際臨床研究を実施した。日本・韓国・香港・中国のセンター施設の65施設の参加で「未治療IV期、再発・難治NK/T細胞リンパ腫に対するSMILE療法の第II相試験（SMILE-II）」を行った。薬剤投与量は第I相試験で決定した推奨用量を用いた。NK細胞腫瘍はEBウイルスが腫瘍細胞中に存在するため、ウイルス量の測定が腫瘍量を反映すると考えられ、このため「SMILE療法における末梢血中EBウイルスDNA定量に関する研究」を附随試験として実施した。症例登録は予測より早いペースで進行し、試験の登録症例数を28例から38例にするプロトコール改訂を行ったが、2009年10月に症例登録を完遂した。3年間で完遂予定であったところを、2年3ヶ月で登録を終えた。Primary endpointの解析では、全奏功割合は74%（90%信頼区間：60-85%）と閾値奏功割合の35%を大幅に上回り、SMILE療法の有効性が確認された。SMILE療法は、これまで標準治療のなかった未治療IV期、再発・難治NK/T細胞リンパ腫の標準治療と結論された。本試験の成功は、稀少腫瘍性疾患であっても多くの参加施設を募れば完遂可能で、エビデンスを創出できることを意味しており、大変意義深いと考える。

研究代表者

鈴木 律朗 名古屋大学医学部 造血細胞移植情報管理・生物統計学 准教授
押味 和夫 順天堂大学医学部 血液内科 教授 (2008年2月まで)

研究分担者

河 敬世 大阪府立母子保健総合健康センター 院長
中村 栄男 名古屋大学大学院医学系研究科 臓器診断学 教授
鈴宮 淳司 島根大学医学部附属病院腫瘍センター 教授
加納 康彦 栃木県立がんセンター 血液内科 副病院長
石田 文宏 信州大学医学部 第二内科 准教授
山口 素子 三重大学医学部付属病院 血液内科 講師
木村 宏 名古屋大学大学院医学系研究科 微生物免疫学 准教授
磯部 泰司 順天堂大学医学部 血液内科 准教授

A. 研究目的

節外性NK細胞リンパ腫(extranodal NK-cell lymphoma, nasal type, ENKL)は、鼻腔を中心と

する節外性臓器に発症する悪性リンパ腫である。腫瘍細胞がP糖タンパクなどの多剤耐性因子を発言することから化学療法抵抗性で、他のタイプのリン

パ腫より予後不良な難治性リンパ腫である。限局期例に対しては放射線照射療法の工夫により、近年予後は改善されつつあるが、ENKLの約20%を占める進行期および再発・難治例では有効な治療法がなく、長期生存者はいないのが現状である。これらのNK細胞腫瘍は日本など東アジア諸国では全悪性リンパ腫の3~8%を占める一方、欧米では1%未満であり、有効な治療法の開発を行うことがわが国を含む東アジア地域に期待されている。

本邦では主任研究者らにより1998年に設立されたNK腫瘍研究会で、香港・韓国・台湾の共同研究者と検討を重ね、近年の基礎研究の成果からENKLおよび急速進行性NK細胞白血病(aggressive NK-cell leukemia, ANKL)に対し有効性が期待されるエトポシド、L-アスパラギナーゼに、多剤耐性(MDR)非関連薬剤であるイホスファミド、メトトレキサート、およびデキサメタゾンを加え、これら5剤の薬物動態を考慮して薬剤投与順序を決定した新規レジメン(SMILE療法)を考案した。ENKLの未治療IV期・再発・難治例およびANKL例を対象として、SMILE療法の推奨投与量の決定と安全性の評価を行うアジア多国間第I相試験(SMILE-PI; UMIN臨床試験登録番号C000000018)を実施した。その結果、投与レベル1において完全寛解を含む奏効が得られ、毒性は許容範囲内であることが確認された。

本研究では第I相試験で登録のなかったANKLを除外した対象においてSMILE療法の第II相試験を行い、SMILE療法2コースの寛解導入療法としての有効性と安全性を評価する。Primary endpointは奏効率(overall response rate)、secondary endpointsは完全奏効率(%CR)、1年生存率、初発/再発/難治別の治療効果、再発例での先行レジメン別での治療効果、有害事象発生率とした。登録期間3年で38名の登録を予定し、日本・香港・韓国・台湾・中国のセンター施設の参加による国際間多施設共同研究として企画した。

B. 研究方法

2007年5月にNK腫瘍研究会のプロトコール委員会でフルプロトコールが承認され、同月内にNK腫瘍研究会の参加施設に試験案内が通知された。

臨床試験計画の概要は以下の通りである。

[症例選択規準]

以下の全てを満たすものを適格例とする。

- (1) 生検または骨髄液・末梢血検査によりWHO分類のENKLと診断
- (2) 以下のいずれかであること
 - ① Ann Arbor病期分類IV期の新規診断例
 - ② 初回治療で寛解(CRまたはPR)後の再発例
 - ③ 初回治療でNCまたはPDであった例
- (3) 年齢15歳~69歳
- (4) Performance status (ECOG) 0-2
- (5) 評価可能病変を有する
- (6) 登録時前にステロイド投与を中止できる
- (7) 十分な骨髄・肝・腎・心・肺機能
- (8) 患者本人よりの書面同意が得られている

[プロトコール治療]

登録後7日以内にプロトコール治療を開始する。

化学療法 (SMILE療法)

薬剤	投与量	投与日 (Day)
メトトレキサート	2 g/m ²	1
ロイコボリン	15 mg/回 x4	2, 3, 4
イホスファミド	1,500 mg/m ²	2, 3, 4
メスナ	300 mg/m ² x3	2, 3, 4
デキサメタゾン	40 mg/body	2, 3, 4
エトポシド	100 mg/m ²	2, 3, 4
L-アスパラギナーゼ	6,000 u/m ²	8, 10, 12, 14, 16, 18, 20
G-CSF	適応承認量	Day 6より開始

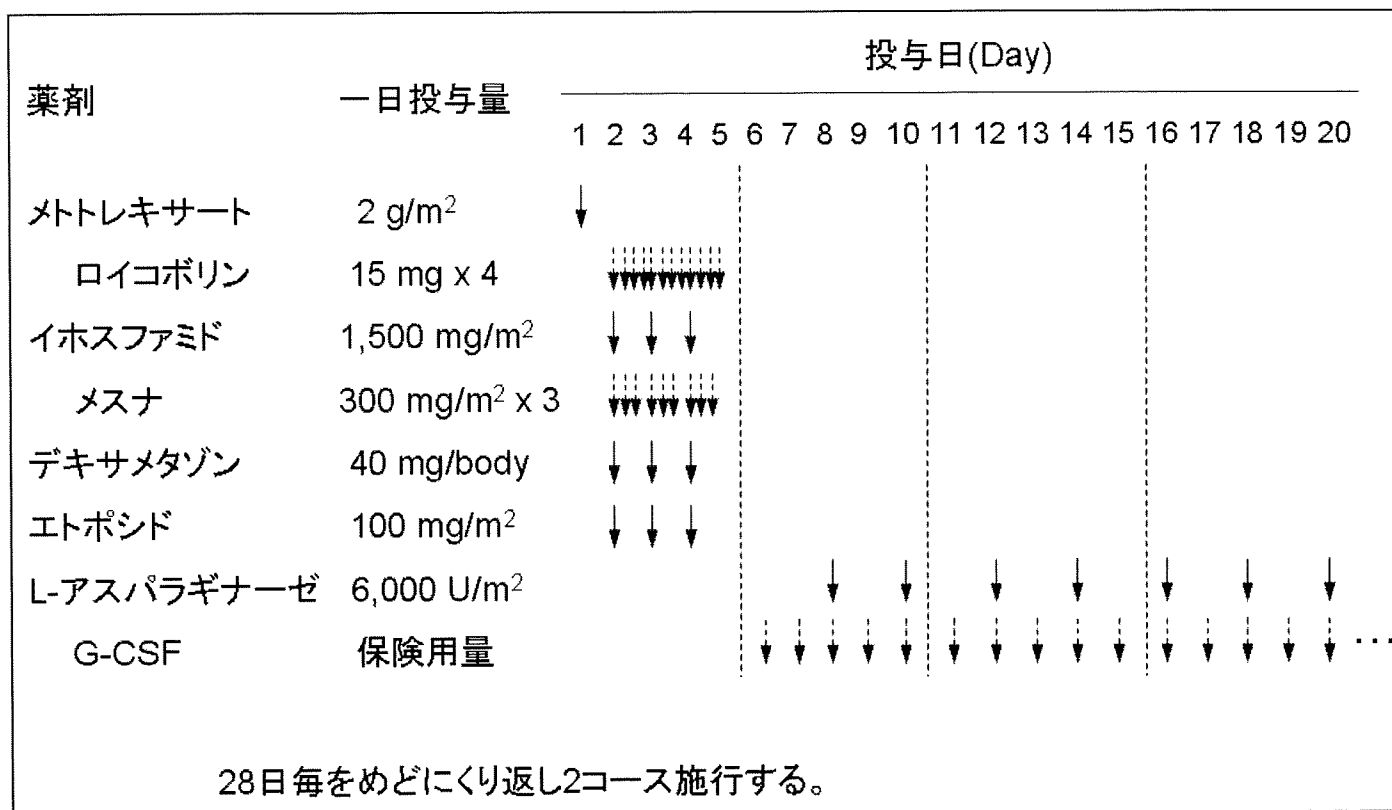
[予定症例数と研究期間、データ管理、附随研究]

予定症例数	38例
予定登録期間	3年
追跡期間	1年
総研究期間	4年

日本国内の施設では「SMILE療法における末梢血中EBウイルスDNA定量に関する研究」を附随試験として実施した。

(倫理面への配慮)

本試験に関係するすべての研究者はヘルシンキ宣言を遵守し、わが国での臨床研究に関する倫理指針あるいは海外各国ではそれに相当する指針に則って実施した。登録に際しては、予め参加施設の



IRB 承認が得られた説明文書を渡し、臨床試験の内容を口頭で詳しく説明した。試験登録後は、プロトコルを遵守し有害事象発生の防止に努めるとともに、対象患者のプライバシーの保護に十分な配慮を行った。

C. 研究結果

本臨床試験は2007年7月から症例登録が開始された。最終的な試験の参加施設 (IRB 承認施設) は国内外の65施設であった。

最初の2例がGrade 4の好中球減少に引き続き感染症で死亡したため、登録を一時休止し、2007年10月12日(日本血液学会・日本臨床血液学会合同総会会期中)に海外参加施設を含むコアメンバーを招集し緊急会議を英語で開催した。討議の結果、適格規準に関するプロトコル改訂を行った上で試験継続することが決定された。プロトコル改訂の要旨は以下の通りである。

(1)2例における致死的な感染症で特に注意すべきとされた条件、すなわち①発症から診断までの期間が長い患者、②ステロイド剤の継続投与が行われていた患者、③感染症を有する患者、④多剤耐性菌の保菌者、についてプロトコルに注意喚起を促す記載を追加する。

- (2)B. ②に関する除外規定の設定が困難であるため、かわりにリンパ球数を適格条件に追加する。
- (3)G-CSF は国外では各国の事情に合わせて適応承認量内で増量してもよいことにする。
- (4)評価不能 (not evaluable; NE)の定義を加えるとともに、単なる検査もれのためNEと判定された症例と早期死亡例とを区別するため、「早期死亡 (early death; ED)」の定義を追記する。

この研究者判断は効果安全評価委員会の審査を受け承認された。2007年11月26日より症例登録が再開された。以降、研究終了まで治療関連死亡は発生せず、適切なプロトコル改訂により研究の安全性を確保できたと考えられた。

本研究はもともと、未治療IV期、再発・難治NK/T細胞リンパ腫/白血病に対するSMILE療法の第II相試験ということで、全奏成功率(overall response rate)を主評価項目として設定した。閾値奏成功率を35%、期待奏成功率を60%と見込み、 α エラー0.05、 β エラーを0.20として28例を要する試験として計画した。症例登録は順調に進み、予測の約1.5倍という早いペースであった。当初より、試験対象が稀少疾患であったため、試験のパワーより完遂可能性を優先させて β エラーを高めに見積も

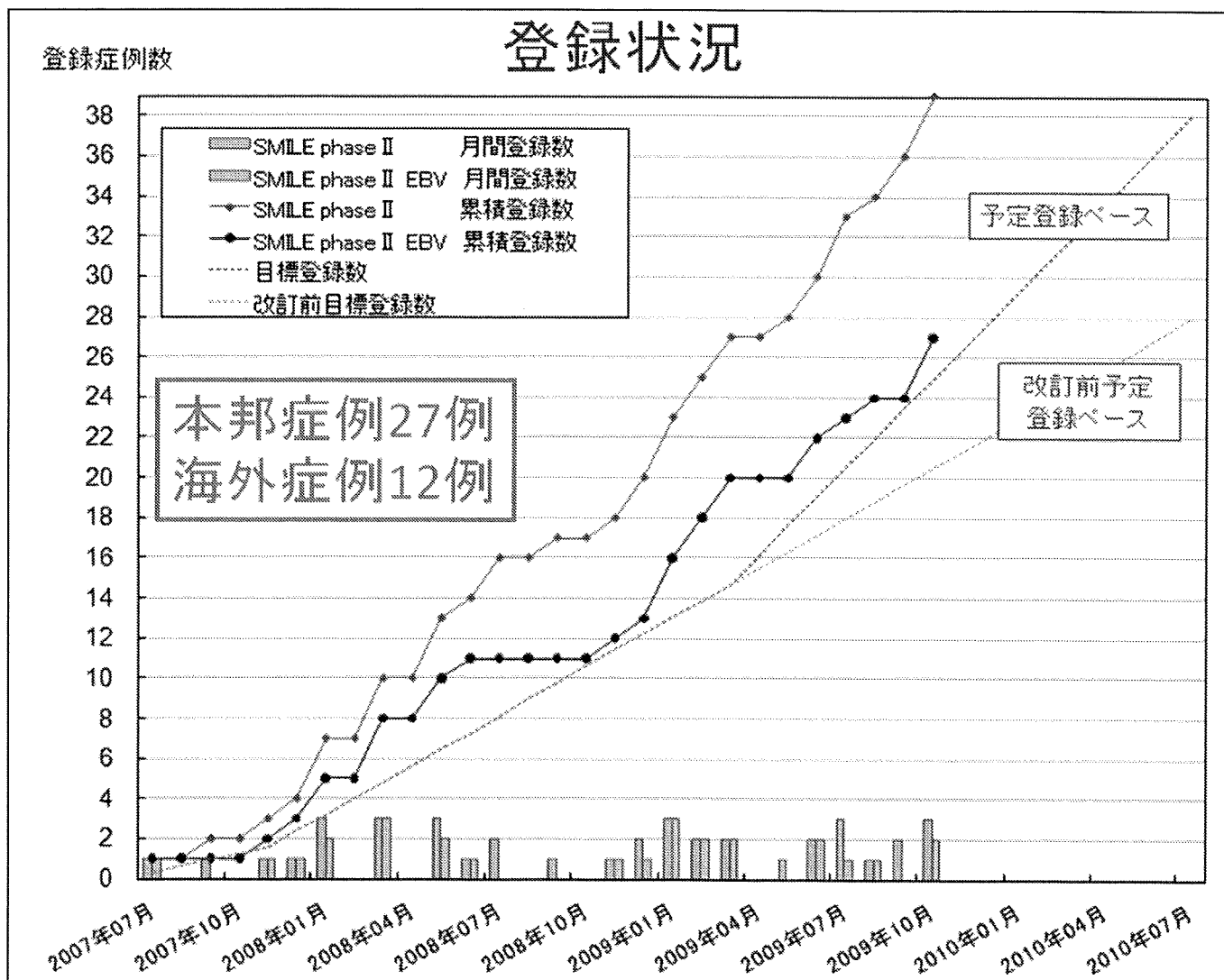
ったが、症例登録のペースが速いことから $\beta=0.10$ とするプロトコル改訂を実施した。この数値で計算すると改訂後の総登録症例数は 38 例となったが、それにも関わらず 2009 年 10 月に予定の 39 例を登録して試験は完遂した (図)。

主な登録患者背景は年齢 16-67 歳(中央値 47 歳)、男：女=21:18、初発 IV 期 21 例、初回治療後再発 13 例、初回治療抵抗例 5 例であった。29 例(74%) がプロトコル治療の 2 コースを完遂した。WHO 効果判定基準による総合効果は完全寛解(CR)が 15 名、部分寛解(PR)が 14 名、不変(NC) 3 名、増悪(PD) 3 名であり、早期死亡(ED)は 4 名であった。Primary endpoint である奏効率は 74% (90% CI: 60-85%) であり、90%信頼区間の下限は閾値奏功割合の 35% を大きく上回った。毒性に関しては、grade 4 の好中球減少が全例で認められ、grade 4 の非血液毒性は感染症 5 例、肝障害 3 例、脳症 1 例であった。

最も頻度の高い grade 3 の非血液毒性は感染症であった(41%)。早期死亡のうち 2 例は感染症によるものであったが、残り 2 例は腫瘍の進行によるものであった。

この他に 2008 年度には、患者向けパンフレットの作成を行った。「NK 細胞腫瘍の患者さんご家族へ」と題する A5 版 24 ページの小冊子で、患者団体を通じて配布したほか、医療機関からの求めに応じて提供を行った。内容に関しては、現在 NK 腫瘍研究会のホームページでも公開している。

2009 年度には、NK 細胞腫瘍の本邦での実態を把握する目的で、「NK 細胞腫瘍および関連 T 細胞腫瘍に関する多施設共同後方視的研究」を、疫学研究に対する倫理指針に則り実施した。データ収集は進行中であるが 866 例の症例情報が集積された。



このうち NK 細胞リンパ腫は 275 例であり、化学療法別の奏効割合は (表) の通りであった。既存の CHOP 療法、DeVIC 療法と比較して、SMILE 療法の高い抗腫瘍効果が明らかとなった。

(表) 初回治療レジメン別 奏効割合 (%)

	CHOP	DeVIC	SMILE	Others
限局期	69	83		70
進行期	14	44	73	25

D. 考察

本研究における SMILE 療法の臨床試験の重要な点は以下の 2 点である。第一点は、本試験は稀少血液疾患を対象とした臨床試験であり、これまで遂行不可能と考えられていた。臨床研究グループは血液疾患の領域でもいくつか存在するが、血液腫瘍のメジャーカテゴリーを対象とした臨床試験しか行われていなかった。しかしながら血液腫瘍には多くの病型が存在し、中でも本研究の対象となる NK 細胞腫瘍は (1) P 糖タンパクの発現による抗がん剤耐性、(2) 欧米に存在しない腫瘍のためエビデンスを本邦で作るしかない、というユニークな特徴を有する。本研究が順調に推移していることは、こういった稀少血液腫瘍に対しても前向き臨床試験が可能であることを意味しており、稀少疾患を対象とする今後の臨床試験を考える上で意義深い。

第二点は、前項と関係するが、本試験が東アジアにおける国際共同臨床試験である点である。これは NK 細胞腫瘍の地誌学的な分布にもよるが、これまで言語の違いが壁となつてなし得なかった共同研究が可能になった点は意義深い。理由として考えられるのは、海外の参加施設とは 5 年以上前から交流を続けてきた点が大きく、言語を超える意思疎通が可能であったと思われる。第一点とも共通するが、「物理的な距離より、考え方の距離」が近かった点が重要で、これまでの本邦の臨床研究の一部は地域的グループによってなされてきたが、電子技術の進歩により物理的な距離は乗り越えられるようになってきている。本試験で培った共同研究意識を高めるために、共通の認識に基づいた臨床試験を継続して行くことであり、それによって臨床研究グループ

が形成可能と考える。実際には、NK 細胞リンパ腫と類似する特性を持つ T 細胞リンパ腫に対しても SMILE 療法の有効性が期待されることから、本研究組織で「末梢性 T 細胞リンパ腫の再発・難治例に対する SMILE 療法の第 II 相試験」を計画し、すでに実施中である。

本研究の社会貢献成果の一つは、患者向けパンフレットの作成である。NK 細胞腫瘍が医師にとって稀少な疾患であるということは、患者にとっても情報の欠乏を意味し、これまで顧みられることの少ない分野であった。本研究の分担研究者は世界でも最先端の NK 細胞腫瘍の研究者であり、こういった最先端の研究者が患者向けパンフレットを直接作成して社会に情報発信することの意義は大きいと考える。

E. 結論

NK 細胞腫瘍に対する東アジア多国間治療研究は、当初の目的を完遂して終了した。本研究で検討した SMILE 療法は、これまで標準治療のなかった未治療 IV 期、再発・難治 NK/T 細胞リンパ腫の標準治療と結論された。本試験の成功は、稀少腫瘍性疾患であっても多くの参加施設を募れば完遂可能で、エビデンスを創出できることを意味しており、大変意義深い。

臨床試験も国際化の時代を迎え、今後東アジアでの国際共同研究グループを構築する必要がある。

F. 研究発表

1. 論文発表

- (1) Murase T., Yamaguchi M., Suzuki R., Okamoto M., Sato Y., Tamaru J., Mori N., Yoshino T. and Nakamura S. on behalf of the refractory lymphoma study group in Japan: Intravascular large B-cell lymphoma (IVLBCL): a clinicopathologic study of 96 cases with special reference to the immunophenotypic heterogeneity of CD5. **Blood** 109 (2): 478-485, 2007
- (2) Narimatsu H., Ota Y., Kami M., Takeuchi K., Suzuki R., Matsuo K., Matsumura T., Yuji K., Kishi Y., Hamaki T., Sawada U., Miyata S., Sasaki T., Tobinai K., Kawabata M., Atsuta Y., Tanaka Y., Ueda R. and Nakamura S.:

- Clinicopathological features of pyothorax-associated lymphoma: a retrospective survey involving 98 patients. **Ann Oncol** 18 (1): 122-128, 2007
- (3) Inamoto Y., Nishida T., Suzuki R., Miyamura K., Sao H., Iida H., Naoe T., Maruyama F., Hirabayashi N., Hamaguchi M., Iseki T., Kami M., Yano K., Takeyama H., Morishita Y., Morishima Y. and Kodera Y.: Significance of additional high-dose cytarabine in combination with cyclophosphamide plus total body irradiation regimen for allogeneic stem cell transplantation. **Bone Marrow Transplant** 39 (1): 25-30, 2007
- (4) Asano N., Suzuki R., Matsuo K., Kagami Y., Ishida F., Tamaru J.-I., Jin G.-S., Sato Y., Shimoyama Y., Yoshino T., Morishima Y. and Nakamura S.: Cytotoxic molecule expression is predictive of prognosis in Hodgkin's-like anaplastic large cell lymphoma. **Histopathol** 50 (6): 705-715, 2007
- (5) Li C., Takino H., Eimoto T., Ishida T., Inagaki A., Ueda R., Suzuki R., Yoshino T., Nakagawa A., Nakamura S. and Inagaki H.: Prognostic significance of NPM-ALK fusion transcript overexpression in ALK-positive anaplastic large cell lymphoma. **Mod Pathol** 20 (6): 648-655, 2007
- (6) Tamaru J.-I., Tokuhira M., Niitsu N., Nakamura S., Ichinohasama R., Suzuki R., Mori H., Takagi T., Suzuki T., Itami J., Itoyama S. and Mikata I.: Hodgkin-like anaplastic large cell lymphoma (previously designated in the REAL classification) has same immunophenotypic features to classical Hodgkin lymphoma. **Leuk Lymphoma** 48 (6): 1127-1138, 2007
- (7) Saito A.M., Kami M., Mori S.-I., Kanda Y., Suzuki R., Mineishi S., Takami A., Taniguchi S., Takemoto Y., Hara M., Yamaguchi M., Hino M., Yoshida T., Kim S.-W., Hori A., Ohashi Y. and Takaue Y.: A prospective phase II trial to evaluate the complications and kinetics of chimerism induction following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation with fludarabine and busulfan. **Am J Hematol** 82 (10): 873-880, 2007
- (8) Oyama T., Yamamoto K., Asano N., Oshiro A., Suzuki R., Kagami Y., Morishima Y., Takeuchi K., Izumo T., Mori S., Ohshima K., Suzumiya J., Nakamura N., Abe M., Ichimura K., Sato Y., Yoshino T., Naoe T., Shimoyama Y., Kamiya Y., Kinoshita T. and Nakamura S.: Age-related EBV-associated B-cell lymphoproliferative disorders constitute a distinct clinicopathologic group: a study of 96 patients. **Clin Cancer Res** 13 (17): 5124-5132, 2007
- (9) Atsuta Y., Suzuki R., Yoshimi A., Gondo H., Tanaka J., Hiraoka A., Kato K., Tabuchi K., Tsuchida M., Morishima Y., Mitamura M., Kawa K., Kato S., Nagamura T., Takanashi M. and Kodera Y.: Unification of hematopoietic stem cell transplant registries in Japan and establishment of the TRUMP system. **Int J Hematol** 86 (3): 269-274, 2007
- (10) Oba T., Suzuki R., Miyamura K. and Kodera Y.: Huge mass of cutaneous-type adult T-cell leukemia which responded to interferon gamma. **Intern Med** 46 (3): 147, 2007
- (11) Inamoto Y., Suzuki R., Kuwatsuka Y., Yasuda T., Takahashi T., Tsujimura A., Sugimoto K., Oba T., Terakura S., Atsuta Y., Murata M., Ito M., Kodera Y. and Miyamura K.: Long-term outcome after bone marrow transplantation for aplastic anemia using cyclophosphamide and total lymphoid irradiation as conditioning regimen. **Biol Blood Marrow Transplant** 14 (1): 43-49, 2008
- (12) Nomura Y., Karube K., Suzuki R., Ying G., Takeshita M., Hirose S., Nakamura S., Yoshino T., Kikuchi M. and Ohshima K.: High-grade mature B-cell lymphoma with Burkitt-like morphology: results of a clinicopathologic study of 72 Japanese patients. **Cancer Sci** 99 (2): 246-252, 2008

- (13) Narimatsu H., Yokozawa T., Iida H., Tsuzuki M., Hayakawa M., Takeo T., Iino M., Ichihashi T., Kato C., Sawamoto A., Sao H., Yanada M., Emi N., Kiyoi H., Yamaguchi T., Naoe T., Suzuki R. and Sugiura I.: Clinical characteristics and outcomes in patients with t(8:21) acute myeloid leukemia in Japan. **Leukemia** 22 (2): 428-432, 2008
- (14) Yamaguchi M., Suzuki R., Kwong Y.-L., Kim W.S., Hasegawa Y., Izutsu K., Suzumiya J., Okamura T., Nakamura S., Kawa K. and Oshimi K.: Phase I study of SMILE chemotherapy for advanced-stage or relapsed/refractory extranodal NK/T-cell lymphoma/leukemia. **Cancer Sci** 99 (5): 1016-1020, 2008
- (15) Yamaguchi M., Nakamura N., Suzuki R., Kagami Y., Okamoto M., Ichinohasama R., Yoshino T., Suzumiya J., Murase T., Miura I., Ohshima K., Nishikori M., Tamaru J., Taniwaki M., Hirano M., Morishima Y., Ueda R., Shiku H. and Nakamura S.: De novo CD5+ diffuse large B-cell lymphoma: results of a detail clinicopathologic review in 120 patients. **Haematologica** 93 (8): 1195-1202, 2008
- (16) Suzuki R., Takeuchi K., Ohshima K. and Nakamura S.: Extranodal NK/T-cell lymphoma: diagnosis and treatment cues. **Hematol Oncol** 26 (2): 66-72, 2008
- (17) Kimura H., Ito Y., Suzuki R. and Nishiyama Y.: Measuring Epstein-Barr virus (EBV) load: its significance and application in each EBV-associated disease. **Rev Med Virol** 18 (5): 305-319, 2008
- (18) Narimatsu H., Iino M., Ichihashi T., Yokozawa T., Hayakawa M., Kiyoi H., Takeo T., Sawamoto A., Iida H., Tsuzuki M., Yanada M., Naoe T., Suzuki R. and Sugiura I.: Clinical significance of minimal residual disease in patients with t(8:21) acute myeloid leukemia in Japan. **Int J Hematol** 88 (2): 154-158, 2008
- (19) Ennishi D., Takeuchi K., Yokoyama M., Asai H., Mishima Y., Terui Y., Takahashi S., Komatsu H., Ikeda K., Yamaguchi M., Suzuki R., Tanimoto M. and Hatake K.: CD5 expression is potentially predictive of poor outcome among biomarkers in patients with diffuse large B-cell lymphoma receiving rituximab plus CHOP therapy. **Ann Oncol** 19 (11): 1921-1926, 2008
- (20) Lee J., Au W.Y., Park M.J., Suzumiya J., Nakamura S., Kameoka J.-I., Sakai C., Oshimi K., Kwong Y.-L., Liang R., Yiu H., Wong K.-H., Cheng H.-C., Ryoo B.-Y., Suh C., Ko Y.H., Kim K., Lee J.-W., Kim W.S. and Suzuki R.: Autologous hematopoietic stem cell transplantation in extranodal NK/T-cell lymphoma: a multinational, multicenter, matched controlled study. **Biol Blood Marrow Transplant** 14 (12): 1356-1364, 2008
- (21) Atsuta Y., Suzuki R., Nagamura-Inoue T., Taniguchi S., Takahashi S., Kai S., Sakamaki H., Kouzai Y., Kasai M., Fukuda T., Azuma H., Takanashi M., Okamoto S., Tsuchida M., Kawa K., Morishima Y., Kodera Y., and Kato S. for the Japan Marrow Donor Program and the Japan Cord Blood Bank Network. Disease-specific analyses of unrelated cord blood transplant compared with unrelated bone marrow transplant in adult patients with acute leukemia. **Blood** 113 (8): 1631-1638, 2009
- (22) Kuwatsuka Y., Miyamura K., Suzuki R., Kasai M., Maruta A., Ogawa H., Tanosaki R., Takahashi S., Koda K., Yago K., Atsuta Y., Yoshida T., Sakamaki H. and Kodera Y.: Hematopoietic stem cell transplantation for core binding factor acute myeloid leukemia: t(8:21) and inv(16) represent different clinical outcomes. **Blood** 113 (9): 2096-2103, 2009
- (23) Suzuki R., Suzumiya J. and Oshimi K.: Differences between nasal and extra-nasal NK/T-cell lymphoma. **Blood** 113 (24): 6260-6261, 2009
- (24) Inamoto Y., Ito M., Suzuki R., Nishida T.,

- Nishiwaki S., Iida H., Kohno A., Murata M., Sawa M., Oba T., Yanada M., Naoe T., Ichihashi R., Fujino M., Yamaguchi T., Morishita Y., Hirabayashi N., Kodera Y. and Miyamura K.: Clinicopathological manifestations and treatment of intestinal transplant-associated microangiopathy (i-TAM). **Bone Marrow Transplant** 44 (1): 43-49, 2009
- (25) Lee S.Y., Kumano K., Nakazaki K., Sanada M., Matsumoto A., Yamamoto G., Nannya Y., Suzuki R., Ota S., Ota Y., Izutsu K., Sakata-Yanagimoto M., Hangaishi A., Yagita H., Fukayama M., Seto M., Kurokawa M., Ogawa S. and Chiba S.: Gain-of-function mutations and copy number increases of Notch2 in diffuse large B-cell lymphoma. **Cancer Sci** 100 (5): 920-926, 2009
- (26) Shimada K., and Suzuki R.: Concurrent chemoradiotherapy for limited-stage extranodal NK/T-cell lymphoma, nasal type. **J Clin Oncol** 2010 (in press)
- (27) Hyo R., Tomita N., Takeuchi K., Aoshima T., Fujita A., Kuwabara H., Hashimoto C., Takemura S., Taguchi J., Sakai R., Fujita H., Fujisawa S., Ogawa K., Motomura S., Suzuki R. and Ishigatsubo Y.: The therapeutic effect of rituximab on CD5-positive and CD5-negative diffuse large B-cell lymphoma. **Hematol Oncol** (in press)
- (28) Inamoto Y., Murata M., Katsumi A., Kuwatsuka Y., Tsujimura A., Ishikawa Y., Sugimoto K., Onizuka M., Terakura S., Nishida T., Kanie T., Taji H., Iida H., Suzuki R., Abe A., Kiyoi H., Matsushita T., Miyamura K., Kodera Y., Naoe T.: Donor single nucleotide polymorphism in the CCR9 gene affects the incidence of skin GVHD. **Bone Marrow Transplant** 2010 (in press)
- (29) Suzuki R., Suzumiya J., Yamaguchi M., Nakamura S., Kameoka J., Kojima H., Abe M., Kinoshita T., Yoshino T., Iwatsuki K., Kagami Y., Tsuzuki T., Kurokawa M., Ito K., Kawa K., and Oshimi K. for The NK-cell Tumor Study Group: Prognostic factors for mature natural killer (NK)-cell neoplasms: aggressive NK-cell leukemia and extranodal NK-cell lymphoma, nasal-type. **Ann Oncol** 2010 (in press)
- (30) Suzuki R., Ohtake S., Takeuchi J., Nagai M., Kodera Y., Hamaguchi M., Miyawaki S., Karasuno T., Shimodaira S., Ohno R., Nakamura S. and Naoe T.: The clinical characteristics of CD7+ CD56+ acute myeloid leukemias other than M0. **Int J Hematol** 2010 (in press)
- (31) Yoshimi A., Suzuki R., Atsuta Y., Iida M., Lu D.-P., Tong W., Ghavamzadeh A., Alimoghaddam K., Lie A.K.W., Liang R., Chan L.L., Haipeng L., Tan P.-L., Hwang W.Y.K., Chiou T.-J., Chen P.-M., Binh T.V., Minh N.N., Min C.-K., Hwang T.-J., and Kodera Y. on behalf of Asia-Pacific Blood and Marrow Transplantation Group (APBMT): Hematopoietic stem cell transplantation activity in Asia: A report from the Asia-Pacific Blood and Marrow Transplantation Group. **Bone Marrow Transplant** 2010 (in press)
- (32) Asano N., Suzuki R., Oshima K., Kagami Y., Ishida F., Yoshino T., Morishima Y. and Nakamura S.: Linkage of expression of chemokine receptors (CXCR3 and CCR4) and cytotoxic molecules in peripheral T-cell lymphoma, unspecified and ALK-negative anaplastic large cell lymphoma. **Int J Hematol** 2010 (in press)

2. 学会発表

- (1) Kwong Y.L., Yamaguchi M., Suzuki R., Kim W.S., Hasegawa Y., Izutsu K., Suzumiya J., Okamura T., Nakamura S., Kawa K., Oshimi K.: Phase I study of smile chemotherapy for advanced-stage or relapsed/refractory extranodal NK/T-cell lymphoma/leukemia. The 12th Congress of the European Hematology Association, 2007 (Poster), Vienna, Austria

- (2) Murase T., Suzuki R., Yamaguchi M., Okamoto M., Sato Y., Tamaru J., Kojima M., Miura I., Mori N., Kawakami K., Kosugi H., Kinoshita T., Yoshino T., Nakamura S.: Asian variant of intravascular large B-cell lymphoma: Is hemophagocytosis mandatory for its diagnosis? The 12th Congress of the European Hematology Association, 2007 (Poster), Vienna, Austria
- (3) Suzuki R., Atsuta Y., Yoshimi A. and Kodera Y.: Toward the APBMT HSCT registry: Search for the survey items. The 12th Meeting of the Asia Pacific Bone Marrow Transplantation Group, 2007 (Oral presentation), Beijing, China
- (4) Yoshimi A., Suzuki R., Atsuta Y., Chan L.L., Lie A., Tan P.L., Hwang W.Y.K., Van Binh T., Kim D.J., Issaragagrisil S., Ghavamzadeh A., Lu D.P., and Kodera Y.: Survey of hematopoietic stem cell transplantation activity in APBMTG 2007. The 12th Meeting of the Asia Pacific Bone Marrow Transplantation Group, 2007 (Oral presentation), Beijing, China
- (5) Atsuta Y., Suzuki R., Mori S., Yoshimi A., Ogawa H., Taniguchi S., Takaue Y. and Kodera Y.: Increase of fludarabine based reduced intensity conditioning for hematological malignancies in Japan: comparable outcome with conventional conditioning. The 12th Meeting of the Asia Pacific Bone Marrow Transplantation Group, 2007 (Oral presentation), Beijing, China
- (6) Inamoto Y., Ito M., Suzuki R., Sawa M., Iida H., Morishita Y., Naoe T., Kodera Y. and Miyamura K.: Clinicopathological manifestations and prognostic factors of intestinal transplant-associated microangiopathy (i-TAM). The 12th Meeting of the Asia Pacific Bone Marrow Transplantation Group, 2007 (Oral presentation), Beijing, China
- (7) Suzuki R.: Future perspectives of research and clinical studies for NK-cell malignancy in Asia. 第 69 回日本血液学会・第 49 回日本臨床血液学会合同総会 (シンポジウム) 2007 年 10 月 12 日(金)、横浜市、パシフィコ横浜
- (8) 稲本賢弘、伊藤雅文、大庭 拓、柳田正光、市橋亮一、村田 誠、西田徹也、澤 正史、西脇聡、河野彰夫、飯田浩充、浜口元洋、鈴木律朗、宮村耕一、森下剛久、平林紀男、直江知樹、小寺良尚. 腸管移植関連微小血管障害(i-TAM)の臨床病理像と予後因子の解析 :名古屋骨髄移植グループ. 第 69 回日本血液学会・第 49 回日本臨床血液学会合同総会 (口演) 2007 年 10 月 11 日(木)、横浜市、パシフィコ横浜
- (9) 澤本晶代、成松宏人、横澤敏也、飯田浩充、都築基弘、早川正哉、竹尾高明、飯野昌樹、市橋卓司、鈴木律朗、杉浦 勇. 日本人における t(8:21)急性骨髄性白血病の臨床像 : 多施設調査. 第 69 回日本血液学会・第 49 回日本臨床血液学会合同総会 (口演) 2007 年 10 月 12 日(金)、横浜市、パシフィコ横浜
- (10) 熱田由子、鈴木律朗、吉見礼美、平岡諦、権藤久司、田中淳司、土田昌宏、加藤剛二、田渕健、河敬世、森島泰雄、三田村眞、加藤俊一、高梨美乃子、長村登紀子、小寺良尚. 日本国内の造血幹細胞移植登録一元化初年度の報告. 第 69 回日本血液学会・第 49 回日本臨床血液学会合同総会 (ポスター) 2007 年 10 月 12 日(金)、横浜市、パシフィコ横浜
- (11) 鈴木律朗 : T/NK 細胞リンパ腫の臨床病態 : 特に NK 細胞腫瘍を中心に. 日本検査血液学会沖縄支部第 5 回学術集会・総会 (教育講演) 2007 年 12 月 1 日(土)、那覇市、琉球大学
- (12) Lee S.Y., Kumano K., Nakazaki K., Sanada M., Yamamoto G., Nannya Y., Suzuki R., Ota S., Ota Y., Izutsu K., Sakata-Yanagimoto M., Hangaishi A., Yagita H., Fukayama M., Seto M., Kurokawa M., Ogawa S. and Chiba S.: Gain-of-Function Mutations and Copy Number Increases of Notch2 in Diffuse Large B-Cell Lymphoma. The 49th Annual Meeting of the American Society of Hematology, 2007 (Oral presentation, Abstract #695), Atlanta, USA
- (13) Yamaguchi M., Nakamura N., Suzuki R., Kagami Y., Okamoto M., Ichinohasama R.,

- Yoshino T., Suzumiya J., Murase T., Miura I., Hirano M., Morishima Y., Shiku H., Ueda R. and Nakamura S.: De novo CD5+ diffuse large B-cell lymphoma: result of a detail morphologic evaluation and long-term follow up of 128 patients. The 49th Annual Meeting of the American Society of Hematology, 2007 (Poster, Abstract #1564), Atlanta, USA
- (14) Narimatsu H., Yokozawa T., Iida H., Tsuzuki M., Hayakawa M., Takeo T., Iino M., Ichihashi T., Kato C., Sawamoto A., Sao H., Yanada M., Emi N., Kiyoi H., Yamaguchi T., Naoe T., Suzuki R. and Sugiura I.: Clinical characteristics and outcomes in patients with t(8;21) acute myeloid leukemia in Japan. The 49th Annual Meeting of the American Society of Hematology, 2007 (Publication only, Abstract # 4269), Atlanta, USA)
- (15) 熱田由子、吉見礼美、鈴木律朗：登録制度：日米欧の比較. 第30回日本造血細胞移植学会総会（シンポジウム）2008年3月1日（土）、大阪市、大阪国際会議場
- (16) 鈴木律朗、熱田由子、吉見礼美、小寺良尚：造血細胞移植登録の調査項目に関する検討：日本と欧米の比較. 第30回日本造血細胞移植学会総会（ポスター）2008年3月1日（土）、大阪市、大阪国際会議場
- (17) 吉見礼美、熱田由子、鈴木律朗、小寺良尚：アジア諸国における造血細胞移植件数の調査：アジアパシフィック造血細胞移植グループ（APBMT）の報告. 第30回日本造血細胞移植学会総会（ポスター）2008年3月1日（土）、大阪市、大阪国際会議場
- (18) 杉浦立尚、稲本賢弘、鈴木律朗、熱田由子、村田 誠、小寺良尚、直江知樹：日本造血細胞移植学会総会と日本血液学会総会・日本臨床血液学会総会との発表演題比較. 第30回日本造血細胞移植学会総会（ポスター）2008年3月1日（土）、大阪市、大阪国際会議場
- (19) Atsuta Y., Suzuki R., Nagamura-Inoue T., Taniguchi S., Takahashi S., Kai S., Sakamaki H., Kouzai Y., Kasai M., Fukuda T., Azuma H., Takanashi M., Okamoto S., Tsuchida M., Kawa K., Morishima Y., Kodera Y., and Kato S. for the Japan Marrow Donor Program and the Japan Cord Blood Bank Network. Disease-specific analyses of unrelated cord blood transplant compared with unrelated bone marrow transplant in adult patients with acute leukemia. The 34th Annual Meeting of the European Group for Blood and Marrow Transplantation, 2008 (Oral presentation), Florence, Italy
- (20) Kodera Y., Yoshimi A., Suzuki R., Atsuta Y., Chan L.L., Li A., Tan P.-L., Hwang W.Y.K., Binh T.V., Chiou T.J., Ghavamzadeh A., Dao-Pei L., Chen P.-M. on behalf of APBMT. Current status of the APBMT registry. The 34th Annual Meeting of the European Group for Blood and Marrow Transplantation, 2008 (Oral presentation), Florence, Italy
- (21) Yoshimi A., Suzuki R., Atsuta Y., Chan L., Lee A., Tan P., Hwang W., Binh T., Chiou T., Ghavamzadeh A., Dao-Pei L., Chen P. and Kodera Y. on behalf of the Asia-Pacific Blood and Marrow Transplantation Group (APBMT). Difference in disease indication and its trend for haematopoietic stem cell transplantation among Asian countries/regions: a report from Asia-Pacific Blood and Marrow Transplantation Group (APBMT). The 34th Annual Meeting of the European Group for Blood and Marrow Transplantation, 2008 (Oral presentation), Florence, Italy
- (22) Atsuta Y., Suzuki R., Yamamoto K., Terakura S., Iida H., Kohno A., Naoe T., Yano K., Wakita A., Taji H., Hamaguchi M., Kodera Y., Sao H., Morishima Y., Hamajima N., Morishita Y. and Miyamura K. for the Nagoya Blood and Marrow Transplantation Group. Favorable response to low dose steroid treatment in Japanese patients with chronic GVHD. The 13th Congress of the Asia-Pacific Blood and Marrow

- Transplantation Group 2008 (Oral presentation), Taipei, Taiwan
- (23) Yoshimi A., Suzuki R., Atsuta Y., Lu D.-P., Ghavamzadeh A., Lie A., Chan L.L., Tan P.L., Hwang W.Y.K., Chiou T.-J., Chen P.M., Binh T.V. and Kodera Y. for the Asia-Pacific Blood and Marrow Transplantation Group (APBMT): Transplant activity survey of APBMT 2007, updated. The 13th Congress of the Asia-Pacific Blood and Marrow Transplantation Group 2008 (Oral presentation), Taipei, Taiwan
- (24) Hyo R., Tomita N., Takeuchi K., Aoshima T., Fujita A., Kuwabara H., Hashimoto C., Takemura S., Taguchi J., Sakai R., Fujita H., Fujisawa S., Ogawa K., Motomura S., Suzuki R. and Ishigatsubo Y.: Rituximab for CD5-positive & CD5-negative diffuse large B-cell lymphoma. The 10th International Congress on Malignant Lymphoma (Poster, Abstract #208), Lugano, Switzerland
- (25) Izutsu K., Yamaguchi M., Suzuki R., Takada K., Harabuchi Y., Gomyo H., Koike T., Okamoto M., Suzumiya J., Nakamura S., Kawa K. and Oshimi K.: Epstein-Barr virus DNA in peripheral blood and extranodal NK/T-cell lymphoma, nasal type. The 10th International Congress on Malignant Lymphoma (Poster, Abstract #229), 2008, Lugano, Switzerland
- (26) Asano N., Suzuki R., Ohshima K., Ishida F., Kagami Y., Yoshino T., Morishima Y. and Nakamura S.: Expression of chemokine receptors (CXCR3 and CCR4) and cytotoxic molecules in peripheral T-cell lymphoma, unspecified and ALK-negative anaplastic large cell lymphoma. The 10th International Congress on Malignant Lymphoma (Poster, Abstract #235), 2008, Lugano, Switzerland
- (27) Kim W., Au W., Lee J., Suzumiya J., Nakamura S., Kameoka J., Sakai C., Oshimi K., Kwong Y., Liang R., Yiu H., Wong K., Cheng H., Ryoo B., Suh C., Ko Y., Kim K. and Suzuki R.: Autologous hematopoietic stem cell transplantation in extranodal NK/T-cell lymphoma: A multinational, multicenter, matched controlled study. The 10th International Congress on Malignant Lymphoma (Poster, Abstract #239), Lugano, Switzerland
- (28) 山口素子、中村直哉、鈴木律朗、鏡味良豊、岡本昌隆、一迫 玲、吉野 正、鈴宮淳司、村瀬卓平、三浦偉久男、大島孝一、錦織桃子、田丸淳一、谷脇雅史、平野正美、森島泰雄、上田龍三、珠玖 洋、中村栄男：De novo CD5 陽性びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫：120 例における詳細な臨床病理学的検討の結果。第 70 回日本血液学会総会（口演）2008 年 10 月 10 日（金）、京都市、京都国際会議場
- (29) 吉見礼美、熱田由子、飯田美奈子、鈴木律朗、小寺良尚：アジア諸国・地域における造血細胞移植適応疾患の動向の比較。第 70 回日本血液学会総会（口演）2008 年 10 月 10 日（金）、京都市、京都国際会議場
- (30) 村田 誠、稲本賢弘、寺倉精太郎、鈴木律朗、小寺良尚、直江知樹：成人血液悪性腫瘍に対する減量強度前処置を用いた骨髓内臍帯血移植法の有効性に関する研究。第 70 回日本血液学会総会（ポスター）2008 年 10 月 10 日（金）、京都市、京都国際会議場
- (31) 浅野直子、鈴木律朗、大島孝一、鏡味良豊、石田文宏、吉野 正、森島泰雄、中村栄男：節性末梢性 T 細胞リンパ腫におけるケモカインレセプターおよび細胞傷害性分子の発現における関連性について。第 70 回日本血液学会総会（口演）2008 年 10 月 12 日（日）、京都市、京都国際会議場
- (32) 鈴宮淳司、伊豆津宏二、鈴木律朗、竹尾高明、奥富慶子、村重直子、但馬史人、丸山聡一、青木定夫、田村和夫：日本の血液診療医の現状：2005 年アンケート調査より。第 70 回日本血液学会総会（ポスター）2008 年 10 月 12 日（日）、京都市、京都国際会議場
- (33) 熱田由子、鈴木律朗、長村登紀子、谷口修一、高橋 聡、甲斐俊朗、坂巻 壽、香西康司、福田隆浩、東 寛、高橋美乃子、岡本真一郎、土田昌宏、河 敬世、森島泰雄、小寺良尚、加藤俊一：成人急性白血病における非血縁者間骨髓

移植と非血縁者間臍帯血移植成績の白血病型別の比較. 第70回日本血液学会総会(プレナリー) 2008年10月12日(日)、京都市、京都国際会議場

- (34) Kodera Y., Kim S., Nagafuji K., Hino M., Miyamura K., and Suzuki R. for the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. Preregistration and five-year follow-up system for bone marrow and peripheral blood stem cell family donors: the interim report. The 35th Annual Meeting of the European Group for Blood and Marrow Transplantation, 2009 (Oral presentation) April 1, 2009, Goteborg, Sweden
- (35) Kodera Y., Iida M., Atsuta Y., Yoshimi A. and Suzuki R.: Current status, history and future prospects of blood and marrow transplantation in Japan, and the progress of WBMT since the last February. The 14th Congress of the Asia-Pacific Blood and Marrow Transplantation Group 2009 (Oral presentation) August 27, 2009, Seoul, Korea
- (36) Suzuki R., Yamaguchi M., Izutsu K., Yamamoto G., Takada K., Harabuchi Y., Isobe Y., Gomyo H., Koike T., Okamoto M., Suzumiya J., Nakamura S., Kawa K. and Oshimi K.: Prospective measurement of EBV-DNA in plasma and peripheral blood mononuclear cells of extranodal NK/T-cell lymphoma, nasal type. The 51th Annual Meeting of the American Society of Hematology, Dec. 6, 2009 (Oral presentation, Abstract #135), New Orleans, USA
- (37) Suzuki R., Terakura S., Kohno A., Sawa M., Kuwatsuka Y., Atsuta Y., Murata M., Miyamura K., Fukumoto M. and Morishita Y. Individual dose adjustment of oral busulfan in conditioning regimen coupled with cyclophosphamide. The 14th Congress of the Asia-Pacific Blood and Marrow Transplantation Group 2009 (Poster) August 27, 2009, Seoul, Korea
- (38) Iida M., Suzuki R., Atsuta Y., Min C.-K., Wu T. Nivison-Smith I., Khatami F., Bihn T.V., Lie A., Chan L.L., Jootar S., Hwang W., Srivastava A., Tesneem F. and Kodera Y.: Activity survey of hematopoietic stem cell transplantation (HSCT) in the Asia-Pacific Blood and Marrow Transplantation Group (APBMT). The 14th Congress of the Asia-Pacific Blood and Marrow Transplantation Group 2009 (Poster) August 27, 2009, Seoul, Korea
- (39) Suzuki R., Yamaguchi M., Izutsu K., Yamamoto G., Takada K., Harabuchi Y., Isobe Y., Gomyo H., Koike T., Okamoto M., Suzumiya J., Nakamura S., Kawa K. and Oshimi K.: Prospective measurement of EBV-DNA in plasma and peripheral blood mononuclear cells of extranodal NK/T-cell lymphoma, nasal type. The 51th Annual Meeting of the American Society of Hematology, Dec. 6, 2009 (Oral presentation, Abstract #135), New Orleans, USA
- (40) Terakura S., Sawa M., Ohashi H., Kato T., Nishiwaki S., Imahashi N., Murata M., Miyamura K., Atsuta Y., Suzuki R., Naoe T., Ito T. and Morishita Y.: Optimization of fludarabine + melphalan conditioning for marrow transplantation from unrelated donors for patients with hematopoietic malignancies: a prospective dose-finding trial using modified continual reassessment method. The 51th Annual Meeting of the American Society of Hematology, Dec. 6, 2009 (Poster, Abstract #2273), New Orleans, USA
- (41) Kim S.W., Yoon S.S., Suzuki R., Yi H.G., Ago H., Imamura M., Wake A., Yoshida T., Lee J.J., Kim J.S., Maeda Y., Izutsu K., Kang H.J., Lee J.H., Kim H.C., Suzumiya J., Matsuno Y., Kim C.W., Nagafuji K., Takaue Y., Harada M. and Kim C.S.: Autologous versus allogeneic hematopoietic stem cell transplantation (SCT) for peripheral T-cell lymphomas (PTCLs): Japan and Korea cooperative study with 330 patients. The

- 51th Annual Meeting of the American Society of Hematology, Dec. 6, 2009 (Poster, Abstract #2284), New Orleans, USA
- (42) Shigematsu A., Tanaka J., Suzuki R., Kawase T., Akiyama H., Fukuda T., Kumano K., Yoshida F., Kanamori H., Kobayashi N., Fukuhara T. and Imamura M.: Superior outcomes using medium-dose VP-16/CY/TBI to CY/TBI as a conditioning regimen for allogeneic stem cell transplantation for adult patients with acute lymphoblastic leukemia. The 51th Annual Meeting of the American Society of Hematology, Dec. 6, 2009 (Poster, Abstract #2306), New Orleans, USA
- (43) Hyo R., Abe Y., Nosaka K., Taniguchi K., Sakai R., Noda N., Shimono M., Sunami K., Usui N., Ohshima K. and Suzuki R.: Proposal of progressive adult onset EBV-associated lymphoproliferative disorder (PAEBV) as a rapid-onset neoplastic disease. The 51th Annual Meeting of the American Society of Hematology, Dec. 6, 2009 (Poster, Abstract #2920), New Orleans, USA
- (44) Suzuki R., Yamaguchi M., Izutsu K., Yamamoto G., Takada K., Harabuchi Y., Isobe Y., Gomyo H., Koike T., Okamoto M., Suzumiya J., Nakamura S., Kawa K. and Oshimi K.: Prospective evaluation of EBV-DNA in peripheral blood of extranodal NK/T-cell lymphoma, nasal type. 第71回日本血液学会総会(口演)2009年10月25日(日)、京都市、京都国際会議場
- (45) 兵 理絵、安部康信、野坂生郷、谷口享子、酒井リカ、野田鎮彦、下野玄英、角南一貴、薄井紀子、大島孝一、鈴木律朗 : Progressive adult onset EBV-LPD (PAEBV). 第71回日本血液学会総会(口演)2009年10月23日(金)、京都市、京都国際会議場
- (46) 石川裕一、清井 仁、宮村耕一、中野祐往、北村邦朗、河野彰夫、杉浦 勇、横澤敏也、花村明利、山本一仁、飯田浩充、恵美宣彦、鈴木律朗、大西一功、直江知樹 : Imatinib 血中トラフ濃度は in vitro BCR/ABL キナーゼ阻害効果を反映し治療効果と相関する. 第71回日本血液学会総会(口演)2009年10月23日(金)、京都市、京都国会議場
- (47) 澤 正史、福本真理子、寺倉精太郎、鋤塚八千代、安田貴彦、稲本賢弘、宮村耕一、齊藤繁紀、島田和之、河野彰夫、村田 誠、鳥野隆博、谷口修一、長藤宏司、熱田由子、鈴木律朗、森下剛久 : 用量調節経口ブスルファンとシクロフォスファミドを用いた造血幹細胞移植におけるブスルファン血中濃度解析. 第71回日本血液学会総会(口演)2009年10月25日(日)、京都市、京都国際会議場
- (48) Kohno A., Terakura S., Saito S., Shimada K., Kuwatsuka Y., Yasuda T., Inamoto Y., Miyamura K., Sawa M., Murata M., Karasuno T., Taniguchi S., Nagafuji K., Atsuta Y., Suzuki R., Fukumoto M. and Morishita Y. Phase II study of hematopoietic stem cell transplantation with targeted busulfan + cyclophosphamide. 第71回日本血液学会総会(口演)2009年10月25日(日)、京都市、京都国際会議場
- (49) 熱田由子、鈴木律朗、山下卓也、福田隆浩、宮村耕一、坂巻 壽、小寺良尚 : 成人血縁者間造血幹細胞移植における二次性固形腫瘍. 第71回日本血液学会総会(口演)2009年10月25日(日)、京都市、京都国際会議場
- (50) Miyazaki K., Yamaguchi M., Suzuki R., Kobayashi Y., Niitsu N., Ennishi D., Tamaru J., Ishizawa K., Kashimura M., Kagami Y., Sunami K., Yamane H., Nishikori M., Kosugi H., Yujiri T., Nakamura N., Masaki Y., Itoh K., Nawa Y., Hyo R., Sakai A., Tsukamoto N., Yano T., Katayama N., Kinoshita T. and Nakamura S. Retrospective analysis of CD5+ DLBCL treated with chemotherapy with or without rituximab. 第71回日本血液学会総会(口演)2009年10月25日(日)、京都市、京都国際会議場
- (51) Shiba N, Tamura K., Kanazawa T., Tsukada S., Nakagawa A., Tanaka F., Suzuki R., Kawa K. and Arakawa H. Pediatric nasal NK/T-cell lymphoma treated with RT-DeVIC

and a review of the literature. 第71回日本血液学会総会（口演）2009年10月25日（日）、京都市、京都国際会議場

(52) Suzuki R.: SMILE protocol for advanced or relapsed/refractory NK-cell lymphoma. T-cell Lymphoma Forum. Jan. 29, 2010 (Oral presentation) Maui, Hawaii, USA

G. 知的財産権の出願・登録状況
該当なし

Ⅱ. 研究成果の刊行に関する一覧

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻名	ページ	出版年
Murase T., Yamaguchi M., Suzuki R., Okamoto M., Sato Y., Tamaru J., Mori N., Yoshino T. and Nakamura S. on behalf of the refractory lymphoma study group in Japan	Intravascular large B-cell lymphoma (IVLBCL): a clinicopathologic study of 96 cases with special reference to the immunophenotypic heterogeneity of CD5.	Blood	109	478-485	2007
Narimatsu H., Ota Y., Kami M., Takeuchi K., Suzuki R., Matsuo K., Matsumura T., Yuji K., Kishi Y., Hamaki T., Sawada U., Miyata S., Sasaki T., Tobinai K., Kawabata M., Atsuta Y., Tanaka Y., Ueda R. and Nakamura S.	Clinicopathological features of pyothorax-associated lymphoma: a retrospective survey involving 98 patients.	Ann Oncol	18	122-128	2007
Inamoto Y., Nishida T., Suzuki R., Miyamura K., Sao H., Iida H., Naoe T., Maruyama F., Hirabayashi N., Hamaguchi M., Iseki T., Kami M., Yano K., Takeyama H., Morishita Y., Morishima Y. and Kodera Y.	Significance of additional high-dose cytarabine in combination with cyclophosphamide plus total body irradiation regimen for allogeneic stem cell transplantation.	Bone Marrow Transplant	39	25-30	2007
Asano N., Suzuki R., Matsuo K., Kagami Y., Ishida F., Tamaru J.-I., Jin G.-S., Sato Y., Shimoyama Y., Yoshino T., Morishima Y. and Nakamura S.	Cytotoxic molecule expression is predictive of prognosis in Hodgkin's-like anaplastic large cell lymphoma.	Histopathol	50	705-715	2007
Li C., Takino H., Eimoto T., Ishida T., Inagaki A., Ueda R., Suzuki R., Yoshino T., Nakagawa A., Nakamura S. and Inagaki H.	Prognostic significance of NPM-ALK fusion transcript overexpression in ALK-positive anaplastic large cell lymphoma.	Mod Pathol	20	648-655	2007
Tamaru J.-I., Tokuhira M., Niitsu N., Nakamura S., Ichinohasama R., Suzuki R., Mori H., Takagi T., Suzuki T., Itami J., Itoyama S. and Mikata I.	Hodgkin-like anaplastic large cell lymphoma (previously designated in the REAL classification) has same immunophenotypic features to classical Hodgkin lymphoma.	Leuk Lymphoma	48	1127-1138	2007
Saito A.M., Kami M., Mori S.-I., Kanda Y., Suzuki R., Mineishi S., Takami A., Taniguchi S., Takemoto Y., Hara M., Yamaguchi M., Hino M., Yoshida T., Kim S.-W., Hori A., Ohashi Y. and Takaue Y.	A prospective phase II trial to evaluate the complications and kinetics of chimerism induction following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation with fludarabine and busulfan.	Am J Hematol	82	873-880	2007
Oyama T., Yamamoto K., Asano N., Oshiro A., Suzuki R., Kagami Y., Morishima Y., Takeuchi K., Izumo T., Mori S., Ohshima K., Suzumiya J., Nakamura N., Abe M., Ichimura K., Sato Y., Yoshino T., Naoe T., Shimoyama Y., Kamiya Y., Kinoshita T. and Nakamura S.	Age-related EBV-associated B-cell lymphoproliferative disorders constitute a distinct clinicopathologic group: a study of 96 patients.	Clin Cancer Res	13	5124-5132	2007
Atsuta Y., Suzuki R., Yoshimi A., Gondo H., Tanaka J., Hiraoka A., Kato K., Tabuchi K., Tsuchida M., Morishima Y., Mitamura M., Kawa K., Kato S., Nagamura T., Takanashi M. and Kodera Y.	Unification of hematopoietic stem cell transplant registries in Japan and establishment of the TRUMP system.	Int J Hematol	86	269-274	2007
Oba T., Suzuki R., Miyamura K. and Kodera Y.	Huge mass of cutaneous-type adult T-cell leukemia which responded to interferon gamma.	Intern Med	46	147	2007